

鳴尾イチゴのこれまで

1904（明治37）年に大阪からイチゴの苗をもらって栽培が始まりました。翌年には、イチゴ狩りが始まりました。その後、「鳴尾といえばイチゴ」と言われるようになりました。

1914（大正3）年にイチゴジャムの製造が始まりました。鳴尾でのイチゴジャムの製作は、長野県でジャムを作っていた塩川一郎さんが鳴尾村の農家に栽培をお願いした事が始まりです。長野県よりも気候温暖な鳴尾の方が、収穫が早く、味も品質も良かったと伝えられています。塩川さんの成功が伝わってから、長野県の業者が次々と阪神間に進出し始めました。

1919（大正8）年には東京の「日本ジャム」が大阪出張所を開設し、鳴尾村でイチゴジャム缶作りが始まりました。

しかし1934（昭和9）年に室戸台風の影響でイチゴ畑

の約半分が被害を受けました。また戦時体制になり農地が買収されました。戦後、イチゴ栽培は再開されましたが、農地を売ったほうがお金になったために、農地は減っていき、今は笠屋地区の農家が、たった1軒だけになってしまいました。



↑イチゴ狩りの様子



↑当時のパンフレット イチゴ狩りの道具→



イチゴ探訪

【ベルンの倉本さんとの座談会】



【鳴尾高校】



【鳴尾東小学校】



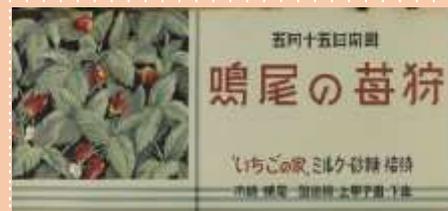
【中島農園】

協力 武庫川女子大学 酒井研究室
株式会社ベルン
西宮市立鳴尾東小学校
中島農園
西宮市情報公開課所蔵(写真提供)
(https://archives.nishi.or.jp/04_entry.php?key=2169)

制作 鶴野 育朗 太田 咲輝 大橋 美羽 甲斐 百萌
照岡 颯太 丸山 大翔 吉田 楓実佳

発行日 2021年1月5日

発行 兵庫県立鳴尾高等学校
〒663-8182 西宮市学文殿町2-1-60
TEL (0798) 47-1324 FAX (0798) 47-1326
http://dmzcms.hyogo-c.ed.jp/naruo-hs/htdocs/?page_id=13



鳴尾イチゴ

〜これまでとこれから〜



鳴尾イチゴご存じですか？

学校の授業や町内会などで知った！

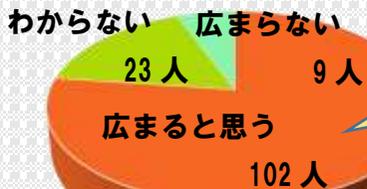
Q 鳴尾イチゴを知っていますか？



{鳴尾高校に来てくださった中学生と保護者の方 136人}

各コミュニティーで鳴尾イチゴについて話題が行われていることがわかりました。

Q 鳴尾イチゴの今後について？



ほとんどの方が「広まってほしい」と回答！

{鳴尾高校に来てくださった中学生と保護者の方 134人に聞きました。}



発信拠点、武庫川女子大学

武庫川女子大学教育学部の酒井研究室では、「鳴尾イチゴ」をふるさと学習における教材として活用した授業づくりの研究を行っています。

- 西宮市内の小学校での出前授業と苗の提供
- 研究成果の発表
- 洋菓子店ベルンとの鳴尾イチゴを使用した商品の共同開発



伝統つなぐ、中島農園

「焼野原からもう一度『鳴尾イチゴ』の生産を復活させたのが父でした」と生産農家中島憲二さんは語ります。「私がいる間はなんとかなる。」と現在も鳴尾イチゴ栽培に取り組んでいらっしゃいます。

現在、中島農園が鳴尾地域で鳴尾イチゴ生産農家として苗を守り続けています。



武庫川女子大学と協力し鳴尾東小学校に苗を譲り、学校の敷地を重機で耕すなどの普及活動も行われました。

イチゴの架け橋、ベルン

「地元産のイチゴを使ったお菓子を作れないか。」この言葉から中島農園と武庫川女子大学が収穫した鳴尾イチゴを使ったお菓子作りが実現しました。

↓ 洋菓子店 ベルン



甲子園ほろほろクッキー

2か所で収穫したイチゴを乾燥させイチゴパウダーを作り、それを生地練りこんだイチゴ風味のクッキーが完成しました。このクッキーのパッケージには、イチゴ提供元の武庫川女子大学のシールが貼ってあります。

ベルンは今後、地域と連携しハッピーファーム構想を実現させ鳴尾イチゴが普及することを望んでいます。

地域に広げる、鳴尾東小学校

鳴尾東小学校では、武庫川女子大学から苗を譲り受け、畑で児童自身が責任をもって育てています。育てた苗は、地域の方にプレゼントしています。また児童たちは



①歴史 ②育て方 ③栄養 ④スイーツのテーマでポスター発表にも挑戦しています。

このような取り組みから、体験学習はもちろんのこと地域の方々とともに鳴尾イチゴの文化を広めることを目指しています。

身近な場所から、鳴尾高校



兵庫県立鳴尾高等学校は2018年に武庫川女子大学から苗を頂き、ペットボトル栽培から始めました。(左図)

現在はプランターに植え替えを行い、ひな壇を設置して、校内での普及と栽培管理をしています。(右図)

